

鹿児島県志布志湾の枇榔島で拾得されたキクガシラコウモリ科 キクガシラコウモリ属 *Rhinolophus* 2 種の初記録

渡邊啓文¹・船越公威²

¹ 〒 890-0004 福岡市中央区渡辺通1丁目1-1 西日本技術開発株式会社環境部

² 〒 891-0197 鹿児島市坂之上8丁目34-1 鹿児島国際大学国際文化学部生物学研究室

はじめに

鹿児島県志布志湾の枇榔島は志布志市の沖合い南方約5kmの志布志湾内に位置し、周囲3.2km、頂上部海拔83m、面積17.7haの小さな無人島である(31°26'N, 131°07'E: 図1)。地質は第三紀層に属し、日南層群の堆積岩からなり小丘陵をなすが、海岸は主として礫浜である。島の東半分はヤシ科ビロウの純林で覆われ、日南海岸国立公園に指定されていると共に、ビロウ林をはじめとする亜熱帯性植物群落は特別天然記念物にもなっていて、鳥類も豊富である(鹿児島県保健環境部環境管理課, 1989)。しかし、本島における哺乳類の本格的な調査は行なわれていない。今回、本島においてコウモリ類2種、キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* とコキクガシラコウモリ *R. cornutus* が拾得された。両種は志布志湾の枇榔島での初記録となるため、ここに報告する。

結果と考察

1. キクガシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum : (図1, 2)

2007年2月22日に枇榔島に上陸した際に、永井健介氏によって島の北部(31°25'30"N, 131°07'10"E)で本種(死体)が拾得された。本個体の写真による毛色やペニスの形状・サイズから、亜成獣雄と判定した。

Watanabe, H. and K. Funakoshi. 2011. The first records of two species of *Rhinolophus* (Chiroptera, Rhinolophidae) from the Islet of Biroujima, Shibusi, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 1-2.

☑ KF, Biological Laboratory, Faculty of International University of Kagoshima, 8-34-1 Sakanoue, Kagoshima 891-0197, Japan (e-mail: funakoshi@int.iuk.ac.jp).

2. コキクガシラコウモリ

Rhinolophus cornutus : (図1, 3)

2007年3月22日に同島に上陸した際に、永井健介氏によって島の北西部(31°25'46"N, 131°06'55"E)で本種(死体)が拾得された。本個体は、2010年10月15日に著者の一人(渡邊啓文)を経て鹿児島国際大学生物学研究室に提供され、当研究室に保管されている。本個体は亜成獣雌で、前腕長40.3mm、第一指長(爪含まず)4.0mm、頭胴40.4mm、頭長16.85mm、尾長16.8mm、脛骨長17.3mm、耳長15.0mmであった。

キクガシラコウモリとコキクガシラコウモリは、北海道から九州まで広く分布している(Sano, 2009; Sano and Armstrong, 2009)。鹿児島県本土で

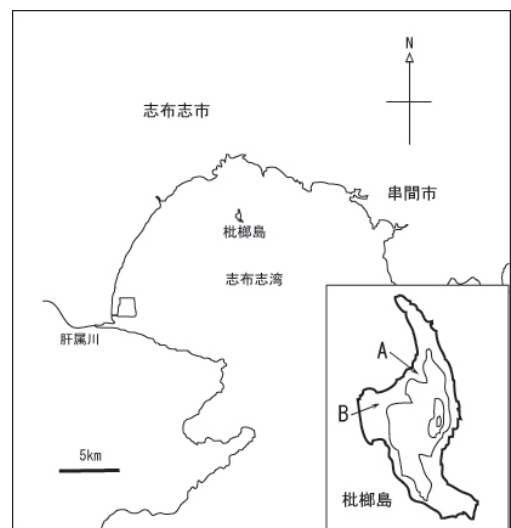


図1. 志布志湾の枇榔島とコウモリ類が拾得された地点。A, キクガシラコウモリの拾得位置; B, コキクガシラコウモリの拾得位置。



図2. 拾得されたキクガシラコウモリの死体.

も霧島山系，薩摩半島及び大隅半島で記録がある（大塚，1995；船越，1998，2000）。しかし，九州周辺の離島部での記録は対馬，壱岐，五島列島，福江島，屋久島，幸島，口之島，口永良部島（澤田，1994；船越，1990，1997，1998）が知られるのみで，生息情報が乏しい。

拾得された両個体は，死後まもなく拾得されたもので無傷で良好な状態であった。キクガシラコウモリは2月下旬に発見されており，冬眠期間中の暖かい日に一時的に覚醒して，何らかのアクシデントで死んだものと考えられる。この時期に遠方（県内陸部）から飛来してきたとは考えられず，島内の未発見の越冬洞窟から飛び出した個体とみるのが自然である。一方，コキクガシラコウモリは3月下旬に拾得されていた。この時季は本種の活動期に入っているため，夜間の飛翔・採餌中に何らかのアクシデントで死んだものと考えられる。コキクガシラコウモリの行動範囲は狭いため，キクガシラコウモリと同様に，島内の未発見の洞窟から飛翔していた個体と考えられる。したがって，鹿児島県志布志湾の枇榔島での両種の発見は貴重な記録であり，今後この島を踏査して未発見の生息洞窟を確認する必要がある。



図3. 拾得されたコキクガシラコウモリの死体.

謝辞

本報告をまとめるにあたり，貴重な情報と標本を提供していただいた永井健介氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 船越公威. 1990. トカラ列島のコウモリ相. 自然愛護, 16: 3-6.
- 船越公威. 1997. 宮崎県のコウモリ類. 宮崎県総合博物館研究紀要, 20: 17-24.
- 船越公威. 1998a. 大隅半島のコウモリ相. 自然愛護, 24: 2-5.
- 船越公威. 1998b. 鹿児島県口永良部島，屋久島および種子島産の翼手類と食虫類. 哺乳類科学, 38: 293-298.
- 船越公威. 2000. 霧島山および山麓地域のコウモリ相. 自然愛護, 26: 1-4.
- 鹿児島県保健環境部環境管理課. 1998. 鹿児島のすぐれた自然. (財)鹿児島県公害防止協会, 鹿児島市, 314 pp.
- 大塚周一. 1995. 7北薩の哺乳類相. 鹿児島県の自然調査事業報告書II. 北薩の自然. 鹿児島県立博物館, pp. 44-47.
- Sano, A. 2009. *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774). In (S.D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M.A. Iwasa and T. Saitoh, eds) *The Wild Mammals of Japan*, pp.58-59.
- Sano, A. and K. N. Armstrong. 2009. *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835. In (S.D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M.A. Iwasa and T. Saitoh, eds) *The Wild Mammals of Japan*, pp.60-61.
- 澤田 勇. 1994. 日本のコウモリ洞総覧. 自然誌研究雑, (2-4): 53-80.